

# FIELD STORY



FIELD STORYでは、開発コンサルタント、NGO/NPO、大学関係者など民間の方々に向け、JICA事業の最新動向、トピックなどをフラッシュしてお伝えしていきます。読者からのご意見や人物紹介なども歓迎します！

March 2018 **3**

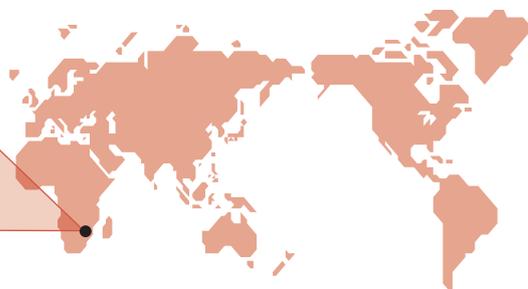
Interview

モザンビーク事務所

Mozambique Office



遠藤 浩昭 所長



## ナカラ回廊地域の総合開発を推進

モザンビークは、日本の約2倍の面積の国土に人口2,900万人が暮らすアフリカ南部に位置する国です。1975年にポルトガルから独立を果たした後、長期にわたる内戦を経験した同国は、これまで2大政党の下で少しずつ平和・安定を実現してきました。また、農業のポテンシャルが高く、石炭や天然ガスが豊富に埋蔵されていることから将来の経済発展が期待される国の一つとされています。

他方、この国は「人間開発指数」が188カ国中181位を記録する最貧国の一つであり、深刻な地域格差に直面しています。南端に位置する首都マプトの中心地では、ビルが建ち並ぶ一方、北部地域の開発は立ち遅れ、人口増加

が進む中で病院や学校などのインフラ不足や慢性的な栄養失調など、さまざまな問題を抱えています。

こうした中、JICAは、日本政府がアフリカ開発会議（TICADV-VI）でも支援を表明した北部の「ナカラ回廊地域」の開発に注力しています。ナカラ

港から北部地域を通り、マラウイ・ザンビアへと抜けるこの回廊では近年、石炭などの物流が活発化し、周辺地域の産業開発も期待されています。そこでJICAは地域開発の青写真となる「ナカラ回廊経済開発戦略」の策定を支援した上で、現在、回廊整備を軸として、北部地域の住民の暮らしが良くなるような総合的な開発を推進し、地域格差の是正を目指しています。

例えば、農業分野では現在、「プロサバナ事業」と呼ばれる3件の技術協力を実施しています。モザンビークでは、人口の8割が農業に従事していますが、そのほとんどが自給自足の小農と言われています。こうした中、ナカラ回廊地域の農業開発を進め、農民の生計向上を目指しています。

具体的には「ナカラ回廊農業開発研究・技術移転能力向上プロジェクト」（2017年11月に終了）では、北部2か所の農業試験場を対象にナカラ回廊地域における適正な農業技術の研究開発を進めました。また、「ナカラ回廊農業開発マスタープラン策定支援プロジェクト」では、農業開発全体の計画策定を支援しているほか、農業普及員



北部のナンブラ州で、種子生産や異株の除去を指導

が効率的・効果的に指導できるよう支援する「ナカラ回廊農業開発におけるコミュニティレベル開発モデル策定プロジェクト」も実施中です。

これらの特徴は、大規模な農業開発ではなく、農家がすぐにでも取り組める工夫や改善策を重視していることです。農作物の輸送網である回廊整備の効果も生かしながら、彼らが継続的に農業を行えるよう後押ししています。

また、回廊整備については、現在、円借款「ナカラ港開発事業」を実施しています。ナカラ回廊の玄関口である同港は、14mの水深を持つ天然の良港である一方、2030年には10倍に膨らむとされるナカラ回廊地域の貨物量に耐えられるよう、埠頭の改修や停泊地の掘削などを通じて同港の拡張を実施します。2021年の完工を目指し、ま

もなく工事をスタートさせます。

## 北部地域の発展を見越し HIV／エイズ対策を強化

ナカラ回廊地域が発展し、人口が流動化するにつれて懸念されるのがHIV／エイズの蔓延です。すでにモザンビークでは、成人の8人に1人がHIVに感染しており、2016年における0～14歳の子どもの新感染者も1万3,000人にも上ります。そこでJICAはこの地域での感染拡大を防ぐべく「HIV／エイズ対策システム強化アドバイザー」を派遣しています。

この協力では、全国で最多の人口を抱える北部ナンブラ州（610万人）のエイズ対策委員会（NPCS）の能力強化を実施しています。NPCSの管轄の下で地方政府の担当者が一般市民向け

にHIV／エイズ対策を計画的に実施できるようPDCAサイクルの導入などを進めているほか、HIV／エイズ対策で実績のあるブラジルから短期専門家を招へいしたり、ブラジルで研修を実施したりして成果を上げています。

ちなみに、現地では伝統的に村の呪術師が通過儀礼の中で若者に性教育を行う習わしがあり、そうした文化とどのように関わるべきなのかは難しいところ。彼らの文化を十分に尊重しつつもHIV／エイズが蔓延している現状を伝え、正しい対策を実施してもらえるよう働き掛けています。

JICAは今後もナカラ回廊地域の人々と対話を重ねながら、さまざまな分野でこの地域の開発、ひいてはこの国の平和、安定の定着に貢献するよう努力を重ねていきます。

## Professional Partner

### 回廊地域の開発戦略を策定 実施に向けた組織づくりも



(株)オリエンタル  
コンサルタンツグローバル  
プランニング事業部  
交通計画部長

浅田 薫永さん  
ASADA Yoshihisa

モザンビークでは1992年の内戦終結以降、基礎インフラの整備を通じて復興が進む一方、首都から離れた北部地域の開発が遅れていました。しかし北部のテテ州で豊富に採れる石炭やタンザニア国境付近に埋蔵されている天然ガスなどの資源開発が進んでいるほか、農業ポテンシャルを軸にした地域の発展が期待されています。

こうした中、JICAは2000年代半ばから北部地域を貫き、国際回廊となるナカラ回廊を支援してきました。特

に、回廊の一部となる道路の改善事業計画の策定の際には、道路整備だけに終わらず、沿道地域に効果が広がるような計画・取り組みも実施しました。

一方、この回廊の周辺地域全体を見渡すと、民間セクターによる局所的な開発が予見され、外国資本による現地資源の収奪や環境破壊なども懸念されました。そこで、JICAは2012年より「ナカラ回廊経済開発戦略」（PEDEC-Nacala）の策定を支援してきました。

PEDEC-Nacalaの特徴は、各国ドナーや民間セクターが個々に進める開発事業の果実が、「ナカラ回廊地域」である北部5州に暮らす住民に行き渡るよう地域開発の全体像を描いたことです。その上で、鉄道や道路の整備に併せて、教育や保健衛生などの事業を提案したほか、環境モニタリングの実施能力強

化や住民の生活向上に貢献する持続可能な開発の在り方を提示しました。

また、この戦略は、早い段階から現地政府職員が主体となって策定を進めたもので、回廊地域のそれぞれの州の代表者も参加したほか、ナカラ回廊に期待を寄せるマラウイやザンビアの関係者とも意見交換をしました。それぞれの地域の思いが盛り込まれた「彼ら自身の計画」だと言えるでしょう。

現在、この地域開発戦略は、政府の閣議承認を得て、これに基づく開発を推進する組織づくりが進められています。私たちも短期専門家として参加し、彼らの積極的な取り組みに応えられるよう寄り添っていきます。

◆  
独立行政法人 国際協力機構  
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25  
二番町センタービル  
<https://www.jica.go.jp>